

# 慈眼寺たより

第22号  
平成29年7月  
春日井市下市場町  
「慈眼寺」  
電話 81-6801  
編集 伊藤秀文

★サ・ム・ラ・イ☆

木村廣孝

去年の六月ごろのことでしたが、お寺の境内で二人組の女子大生に遭った。其のうちの一人がカナダの学生で、寺の中を見学したいとのこと。見学という事ではなくお参りしていただき、その時を見ているか、と話した。しばらくして外へ出て来たので、なぜこの寺を見学したのか聞いてみた。返事は観光地化された有名な寺では判らないものが日本の一般的な寺で見たかったようだ。そして、「あなたは寺の人か」と聞かれたのでそうではなく先祖からの檀家のものだと答えた。そこでもう一人の日本人の学生に、「サムライ」と書く言葉は漢字で「寺の人」と書くということを通訳してもらった、カナダの学生は「サムライ」という言葉を知っていて「オウ

ー」と驚いていた。自分が想像していた「サムライ」は兜を付けた鎧武者だったのだろう。それから日本の学生との会話のなかで学生が「時」・「待」・「持」・「詩」なども「寺」が関係した漢字を並べて「スマホ」でサムライの語源を調べて「さぶらう」や「貴人に仕えて仕事をする人」などと言い出したので話がまとまらなくなった。

いろいろ話していくうちに、サムライというのは「作務衣（さむえ）」を着た武芸者ではなからうかということになった。仕官できない武芸者が、作務衣を着て寺を守るという構図である。「サムエ」と呼び聞いた人は少しなまって「サムレエ」という発音になり「寺の人」ということで「侍」（サムライ）が生まれたのではないかという結論になった。カナダの学生にどう翻訳したかは知らない。

い。カナダの学生に黒沢明監督の「七人の侍」という映画をご存じかきいてもらったら「クロサワ」は知っているが映画は知らない（二人とも）とのこと。そして二人は勉強のテーマでも見つかったのか別れの挨拶をして姿が山門から見えなくなった。

ここで若い頃に見た「七人の侍」の映画のことを思い出してみた。侍が農民の助っ人として盗賊集団と雨の中で戦うシーンは迫力があつた。今になって考えてみると黒沢明監督が言いたかったことがわかってきたような気がする。農民の味方になって戦って勝ったとしても恩賞もなければ仕官もないにもかかわらず命を落とす危険を承知で戦う侍たちリーダーの志村喬、口は悪いがなぜか農民を見捨てられない三船敏郎、寡黙な一刀流の使い手の宮口精二など個性派揃いだ、共通しているのは古い言葉かもしれないがいわゆる「義侠心」である。

「義侠心」という熟語の解説を調べてみると、「私利私欲に

走らず困った人や弱い立場の人に力を貸す性質」と書いてあった。同じ様な意味の言葉で「任侠」が記載してあった。プロ野球の「侍ジャパン」の選手は、実力で球団と契約して

## 〈青柳歌壇・俳壇〉

● 慈眼寺の豊かにはねてる鯉幟  
青田風文字をお掃除しているよ  
伊藤清雄

● 春耕や雀が降りて餌探す  
雨粒の残るガーベラ仏壇へ  
うららかや蜥蜴が車庫の隅走る  
伊藤貴美子

● ありがたや曾孫に恵まれ四世代  
米寿も射程更に鞭当て  
懐メロに軍歌新曲織り交ぜて  
週に二回のカラオケ楽しむ  
今井正

● 医師告ぐれば青年端正な顔歪め  
涙落とすをはからずも見つ

● 燃えしふる手紙の束や春の暮  
聞き返す父に声張り彼岸寒  
ひがんさむ  
矢野孝子

報酬を得ており武士になるので「さむらいジャパン」ということになる。「侍」といえるのは大リーグで高額年俸をけって広島カープへきた黒田投手ぐらいだろう、中日の大島や平田の二選手も弱いドラゴンズを見捨てられなかった「侍」だろう。今後の二人の活躍に期待したいと思う。

我々が日常において気付かず知らず知らずのうちに「義侠心」らしきものが働いていることもあるのではと思う。区会、町内会、子供会その他組織の役員等でも引き受ければ、できるのかの不安、煩わしさなどあるがそれを承知で引受け活動していたらいい。これも立派な「サムライ」の心だと思う。明治のころで与謝野鉄幹の「友を選ばば書を読み、六分の俠気、四分の熱・」。このことわざを裏読みすれば自分が「義侠心」を持たなければ周りに人から友として選んでもらえないことになる。

**（お知らせ）** 本年のお盆  
棚経は原則として律舟が回らせていただきます。

### ★僧堂生活☆

春日井律舟

金沢駅のバスターミナルをその奥能登門前行きのバスが出たのは確か一六時二五分だったと思います。とにかく陽は傾きかけていました。北陸新幹線が開通しもうすぐ一周年。お祝いムードで鼓門、もてなしドームの辺りは凄いい賑わいでした。その賑わいの片隅で、見送りに来てくれた彼女にとし、ばしの別れを告げ握手をして僕はバスに乗りました。

曹洞宗では僧侶になる為にはある一定の期間、宗門の専門僧堂で修行を行い資格を得なければいけない。その為僕は昨年二月二十九日より一年間の修行を行う為に石川県の総持寺祖院に向かっています。その総持寺祖院のある門前町までは鉄道は通っておらず金沢から高速バスで二時間半かかる。能登半島を南北に走る里山道路はとても景色の綺麗な道路で、金沢を出てしばらく行くと左の窓には延々と日本海が広がる。僕は海を眺めるのが結構好きだ、いまどきのつまらない

テレビをダラダラ見続けるよりよほどいい。水平線に沈み込む夕陽を眺めながら今さつき別れた彼女とひたすらラインを打ち続けた・・・。

祖院への上山は明日の早朝になる為、安居（修行生活の為僧堂に入ること）する雲水（修行僧）は皆近くにあるビューサンセットというホテルに前泊する。ホテルの近くのバス停で降りた時、陽はすっかり暮れていた。道の両側には林が広がり木々が近くまで迫っていて、バス停の街灯が小さく灯るだけで道路の後ろも前も真っ暗でした。スタッフの乗ったバンが迎えにくるまで少し心細かったです。と思います。

ホテルは決して新しく綺麗というわけではなかったですが、スタッフの方の視線には何となく優しさや丁寧さを感じました。最後の晚餐と思いつく夕食は一人でビールを飲んだ。二〇一六年二月二十九日朝、墨染めの衣に袖を通す。やたら寒いと思っていたら雪が降っていて、その寒さに北陸に来た事を実感した。

### お盆のお知らせ

#### ① 棚経の日取り

八月十日 熊野、神領方面  
八月十一日 穴橋（県道東）  
堀北

八月十二日 浅山、鳥居松

八月十三日 勝川、名古屋

八月十四日 四谷、南部

八月十五日 下市場

八月十五日 穴橋、篠木、関田

右は原則です。個別にお知らせいたします。

#### ② お施餓鬼

お施餓鬼は毎年八月十八日です。今年も金曜日です。

七月一日から受付をしております。早い時間帯は予約済みとなっております。ご希望の方はなるべくお早めにお申し込みください。電話で結構です。お布施は今までどおりで

初盆施餓鬼	五万円
特別大施餓鬼	三万円
大施餓鬼	二万円
合同施餓鬼	一万円

### 精霊流し

八月十五日午後四時半から慈眼寺山門のところで行います。明るいうちにお持ちください。

まずは総持寺祖院の塔頭寺院である芳春院に向かう、ここは加賀百万石の前田利家公の妻、お松の方の菩提寺です。

芳春院でまず簡単な説明を受け、昨日まで着ていた洋服や携帯電話、財布を預け、威儀を整える。上山の恰好は裾は膝丈の高さまでたくし上げ帯で留め手甲脚絆にあじろ笠に草鞋です。時代劇なんかにたまに出てくる旅のお坊さんの恰好です。持ち物は涅槃金（今の時代は大袈裟ですが修行中亡くなってしまった時のお経代）と龍天軸（修行僧のお守り）と血脈（師弟の系譜）とお袈裟を入れた袈裟行李（箱）と歯ブラシと手拭、石鹸を入れた後付行李（箱）と応量器（ご飯をいただく時に使うマトリョーシカみたいな器）を身体の前後に結び付け、坐蒲（坐禅に使う座布団）を抱えます。威儀を整えたらよいよ山門へと案内される。

上山の時と山を降りる時の二回だけしか渡れないのです。これも一連の儀式なのだろうが橋の前で上山者に一度後ろを振り返らせる。「この橋を渡ったら修行生活が始まる覚悟を持って渡りなさい」。そう言われても僕は新米修行僧にしてはいい年なのであまり情けない顔もしたくない、が、生意気な奴と思われても困るので一応神妙な顔で橋を渡った。山門を越え、庫院の入り口に着く。案内の係とはここで説明を聞き終えて別れる。

案内で言われたとおりに木板を力いっぱい三回打つ。静かな山内に音が響く。しかし反応は無い、雪の降り続ける山内は再び無音になる。時間は分からないが一時間くらい経っただろうか、一人の雲水が警策（修行僧を叩く棒）を持って出て来た。警策を床に打ち付けて言う。「尊公、何しにここへ来た？」

「ご開山拝登ならびに免掛塔よろしゅう」と大声で返す。先ほど案内係に教えてもらった言葉だ、意味はこの時点では知らないが、ご開山様のお参りとこ

こで修行する許可を下さいつたとこらだ。

「聞こえねー」

「ご開山拝登ならびに免掛塔よろしゅう」「聞こえねー」

「ご開山拝登ならびに免掛

塔よろしゅう!!」

「どういう意味だ？」

「・・・」（え、その質問は説明に無かった。「意味も分かってねーのか?」「・・・えつと修行をさせて下さい!（汗）」

「修行って何だ?」

「・・・（えー、知らないよそんなの）坐禅や作務をして自分を鍛える事です!!」

「そんな事はここじやなくてもどこでも出来る」

（それは確かに!でもこつちも帰れるもんなら帰りたいよトホホ・・・）。そう言うと言水は何処かに行ってしまった。

待つこと三〇分くらいだろうか先ほどの雲水がまた出てくる。

「ではこの寺のご開山様の名前と二祖様の名前は?」この質問も先程の案内の係に聞いている。

「太祖上済大師様と大現・・・」

（いかん、緊張して忘れた!）答えに詰まったらまた雲水は問答を止め何処かに行ってしまった。

待つこと三〇分くらい。先ほどの雲水と別に水をはった手洗を持った雲水がやって来た。

「二祖様の諡号くらい覚えておけ、大現宗猷國師様だ」

今の時代は一連の儀式と云う趣です。上山がこれで許される訳ではありません。この後、且過寮（たんがりよう、本来諸国を廻る雲水が一晩泊まる仮宿との事です）という寮舎に向かいます。食客の修行僧扱いです。且過寮では線香の火を絶やさず勉強しなさいと言われ線香の束を渡される。そして坐禅、基本的な偈文の暗記、基本作法の習得を行う。朝の坐禅やその後の本堂での朝のお勤めも参加はするのですが基本皆と一緒にでは無く少し外れた所、坐禅の時は外単という坐禅堂の部屋の外側に坐り、本堂も真ん中の皆が座っている所には入れません。最初は正座と坐禅は辛く三ヶ月くらいは足が痛くてたまりませんでした。朝のお勤

めが長いと一時間。その後の朝ごはんも正座でお粥を食べるので最初は食事終わって立ち上がる事が出来ませんでした。

且過寮は大体五日間くらいです、この間は家から送った自分の荷物にはまだ会えなません。着の身着のまま風呂は無し。午前中のトイレ掃除と廊下の雑巾がけ作務を行うのですが作務衣もない為、着物にたすき掛けに裸足で行う。外のトイレ掃除も裸足で行います。

着物の下はシャツとパンツだけなので毎日日本当に寒い、しかしここで風邪を引いたら大変だと思いい夜は気合を入れて眠りました。五日目の朝、この日且過寮を出る事が出来ます。朝のお勤めの後、ご開山様と相見の拝（ご開山様にお参りと総持寺の住職に挨拶をする、挨拶というよりこれも儀式なので怒鳴ります）入堂の拝（坐禅堂に入る為の儀式）を行う。そして朝食を終えた後、看読寮（かんどくりよう、見たり読んだり）の勉強は良いけど会話は厳禁の場所です、雲水の生活の場、狭くて夏場は暑く男臭い）へ挨拶

に行く。同じように大勢の雲水達の前で怒鳴って自己紹介をする「愛知県、慈眼寺徒弟、春日井律舟、新到よろしゅう！」堂行長（先輩雲水）に覚悟を問われる「先輩古参のどんな理不尽にも耐えられますか？」「はい」と答えると百日間の禁足期間を言い渡される。（修行道場から出ることも手紙、電話等外部との連絡一切禁止！トホホ）

スマホが無い生活にも最初は違和感がありました。本堂や坐禅堂に行くと（電源切らなきやって）思ってしまうのですが、あ、持っていないんだ、と気がつきません。日常の疑問なんかも（グーグル先生に聞こう）あ、無いんだと思いい出します。とにかくこうして無事に私の修行が始まったわけです。

状況説明や言葉が難しく伝わっているのか凄く心配ですがこれから暫く書く事になると思っています。そんな感じなんだと少しでも興味を持つて頂けたらと思います。不慣れなもので駄文ではございますがよろしくお願いいたします。

## 暑中お見舞 申し上げます

檀方総代	伊藤辰男
伊藤久幸	伊藤秀文
伊藤正廣	大野和義
大野悟	木村廣孝
春日井浩道	春日井律舟
住職	
徒弟	

### ☆世相雑感★

政府は一体何を考えているのだろう。お友達に国有財産をほとんどタダであげてしまつて、普通の会社の社長なら背任罪に問われるところです。何百人もいる自民党の国会議員が何も文句を言わないのは異常事態だ。また、お友達だけをえらく優遇して、そのことを示す文書があれば「怪文書だ」と言いはる。政治は「信なくば立たず」と言いますが、その信頼が全くなくなろうとしています。そのうえ、道徳を正規の授業にしようとしています。政府のツラ下げてなんでしょう。政府の言いなりになる従順な国民を作りたいのでしょうか。そういういえば、教育勅語にもいいこ

とが書いてあるといった女が防衛大臣だそうです。

最近、中学生や高校生の活躍が目立っています。将棋や卓球でもすごい大人達をコロコロ負かせています。頼もしいですね。どんどん伸びて欲しいと思います。

### ★編集後記☆

梅雨に入ったら、晴天が続いて水不足の心配が出てきましたが、少し梅雨らしくなってきました。今日、珍しく本堂前で大きな青大将を見ました。何を食べているのでしょうか。蛇にも住みにくくなってきたようです。

今回は律舟の僧堂生活が入ったので「説法」はお休みにさせていただきます。

夏も年々暑さがまして来るようです。三十度くらいでは暑さのうちに入らないようになりました。今年も酷暑のようです。熱中症にも注意してお過ごし下さい。

「慈眼寺たより」 第二十二号

平成二十九年七月十日発行

ホームページ

←

http://www.ma.ccnw.ne.jp/  
jigenji/